

第1回小中一貫教育小規模校サミット in 大原

報告



目次

I. 報告	1
II. 皆様のご質問に対する回答	3
III. アンケート感想	11

I. 報告

日時・場所

11月21日（土）8：30～16：00 於，京都大原学院

主催

小中一貫教育小規模校連絡協議会

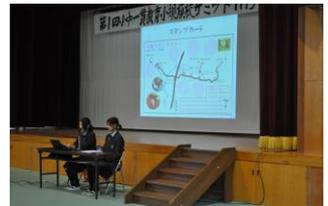
京都大原学院（京都市） 田原小中学校（奈良市） 宮島学園（広島県廿日市市）

参加者

北は北海道，南は九州から京都市以外の学校，教育委員会，他地域，大学関係者約150名が参加。田原小中学校教員，宮島学園教員，京都市関係，保護者，地域を含めると約250名が参集した。

内容（午前）

- 1, 公開授業
- 2, 全校合唱
- 3, 大原提言
- 4, 研究報告



内容（午後）小中一貫教育小規模校サミット全体会

- 1, 挨拶 京都市 在田正秀教育長



- 2, 大会趣旨説明 京都大原学院校長 石飛聡
- 3, 小中一貫教育小規模校連絡協議会3校による学校紹介（映像）
- 4, 小中一貫教育小規模校連絡協議会3校の卒業生，地域代表によるパネルディスカッション 進行 奈良教育大学教授 小柳和喜雄先生



- 5, グループに分かれワークショップ形式のディスカッション。(小中一貫教育小規模校の強み, 弱み, 関心のあること, 知りたいこと)



- 6, 質疑応答 コーディネーター 奈良教育大学准教授 赤沢早人先生

- 7, 講評 流通経済大学教授 小松郁夫先生



成果

- ・全国で同じ悩み課題を抱えている地域学校がたくさんある。みなさん、手探りで明日の姿を模索している。今回のサミットで交流の場を設定したことで、さまざまな繋がりが出来始めている。(アンケート感想参照)
- ・協議会の3校の取組を先進的と評価され、協議会への入会を希望されている学校、教育委員会が出てきた。
- ・ボトムアップの発想からの取組だったが、京都市教育長を始め京都市教育委員会の後援を得た。
- ・流通経済大学教授 小松郁夫先生の講評で「これからの日本の教育は小中一貫教育の小規模校の中から生まれる。」とのお言葉に、参加者一同勇気づけられた。
- ・京都新聞、日本教育新聞にも大きく取り上げられ、関心の高さを示すことができた。



Ⅱ. 皆様のご質問に対する回答

参加された皆様の「関心のあること知りたいこと」(●の太字)を、京都大原学院教職員全員で出来る限り議論し、回答いたしました。奈良教育大学教授、小柳和喜雄先生のご助言をいただき、4つの柱に分類し、回答させていただきます。

1. 質問への回答作成と関わって

小中一貫をすることによって生じる新たな取組への不安

●職員室は一つか二つか？

一つです。前期ブロック・中期ブロック・後期ブロックの島に分かれています。職員室が一つであることで、小学籍・中学籍の先生が普段から気軽にコミュニケーションがとりやすくなり、授業の打ち合わせがしやすくなっていると思います。

●どのように小中の先生が結びついていくか？

一つの職員室で3つのブロックに分かれて教職員の席を設けています。毎朝、職員打ち合わせ後、ブロックでも打ち合わせを行っています。施設一体型の一貫校であるため、同じ子どもたちを全員で育てるという意識で、当たり前のように活動するので、結び付きは分離型一貫校に比べて深いと考えます。9年間を全員で協力し育てるという意識から、協調性も高まり、小学校・中学校のシステムの違いをカバーできていると考えています。

●職員の共通理解、協働体制が難しくないか？

毎朝の職員朝礼、ブロック単位で連絡を通して、連絡事項は把握できます。また、ブロック会議、ブロック長会議を定期的に行うこと、職員会議でブロックからの報告を設けることで、大体の動向は把握できると考えます。その他に、企画委員会、生徒指導委員会、総合育成支援教育委員会、学力向上委員会などの特別委員会を設け、小学籍、中学籍分け隔てない共同体制をとっています。学院生との関わりにおいては、毎日縦割り掃除を行うことにより、ブロック以外の学院生ともコミュニケーションが生まれ、日々、全教職員で全学院生を見守り育てる体制が自然にできています。

●小学校の授業の強みと中学校の授業の強みをどう融合させるのか？

例えば理科では、T1として中学籍の教員が専門性を生かして授業を組立て進めていますが、一日を通して観察しなければならないことがある単元(太陽の動きを調べたり、一日の気温の変化を調べたりする単元)については、小学籍の教員がT1になり授業を進めていくことがあります。また、小学校でおさえなければいけない知識や用語などを把握しているのは小学籍の教員なので、ワークシートを作ったり、単元のまとめを担当して確実に学習の定着をはかったりすることもあります。中学籍の教員の専門性プラス、小学籍の教員の小学生の発達段階にあったきめ細かい授業を融合していけ

るように進めています。教科・単元によっていろんなパターンがあります。

●校内研修の際には、どのような視点で話し合われるのか？

中学籍の教員も教科を問わず、全員が研修で話し合えるように、主に今年度、研究していることについての視点で話し合っています。(今年度であれば、やる気スイッチをONにすることができたか。アクティブ・ラーニングなど) また、どのような視点で授業を見ればいいかが明確になるように、指導案に授業の視点を書くようにしています。

●小中一貫教育を実施することで自己有用感は向上したのか？検証はどのように？

「ブロック制（前期・中期・後期）での学校生活」と「1～9年生の縦割りでの活動」により、学院生は自分の成長の過程を意識する場面を多く持っています。各自が次のブロックへと進むまでにどのような自分になっていたのかを思い描いています。そして、そのことを考えられる各学年の役割分担もあります。また、縦割り活動の場面では下級生に様々なことを教え、上級生がリーダー役を務めます。自分が果たしている役割を意識する中で充実感を得ていることが、学院生の会話や作文などから伝わってきます。これらの過程で、学院生の自己有用感も育まれていくと考えています。全国学力学習状況調査の生徒質問紙においても、全国に比べ、自己有用感の項目は非常に高い数値が出ていました。

●6年生の最上級生としての自覚は？卒業式は？

6年生では中期ブロックをつなぐ学年として意識付けがなされており、次のブロックリーダーとして7年生をサポートし、送り出すことを意識づけしています。中期では7年生を送る会をブロック卒業式として位置付ける方向で進めています。学校全体の卒業式に関しては9年生のみ行い、全学院生で送り出すという流れになっています。ただし、6年生での卒業式は立志式として行い小学校課程の卒業証書を渡していますが、ブロック制の流れと学院生や保護者の思いとして違和感があるのも事実です。今後、立志式の在り方を考えていく必要があると感じています。

●児童会、生徒会の取組は？

児童会と生徒会を1つにして児童生徒会として取組を行っています。5年生から9年生が児童生徒会員として各委員会に所属しています。5月には「1年生を迎える会」6月には「児童生徒総会」10月には「本部役員選挙」3月には「9年生を送る会」などの取組を行っています。また、2ヶ月に1回、お昼休みに「エンジョイニコニコタイム」という全学院生（1～9年生）でゲームを楽しむ行事を行っています。全学院生での交流の場をもつことと、担当の委員会の企画力・運営力を培うことをねらいとして行っています。

●教師の多忙化はあるのか？

開校7年目を迎え、小中一貫校立ち上げに伴う多忙化は、ほぼ鎮静化していると感じられます。ただ、一貫化によって新たに加えられた行事や、小規模ゆえ全校もしくはブロック単位で参加する行事が少なくないため、行事の精選は今後の検討課題です。

また、小中の教員によるTT授業の打ち合わせの時間がとりにくいという悩みもあります。例えば、小学籍の教員と中学籍の教員が放課後に教材研究をするときに、中学籍の教員が部活動の指導等で職員室におらず、放課後の遅い時間から打ち合わせをすることがあります。このことは、児童生徒会指導の打ち合わせにおいても同様です。

小中一貫で進めている取組の詳細、また具体的内容と関わって

●45分と50分をどう擦り合わせているか？

本校は、ブロック制を大切にしているため学習時間についても、前期ブロックは45分を基準とし、中期ブロック、後期ブロックは50分を基準としています。また、中学校籍の教員の入り込み授業の関係もあり、校時と校時の間は10分休憩としています。しかしながら、5・6年生にも中間休みを確保したいという思いから、5・6年につきましては2校時と3校時に限り45分授業としています。校時表をご覧くださいますとお分かりいただけるかと思いますが、他校に比べ放課になる時刻が遅く、子どもたちの拘束時間が長いことが懸念材料ですが、その他1～9年生の給食や縦割り掃除の実施、中間・昼休みの確保等を考えますと、今の校時表に代わるものはないと思われま

●連携した授業（中学校の先生の入り込み）に時間はどう確保するのか？

前期ブロックでは、1・2年は英語、3・4年は英語・理科で、5年は英語・理科・算数・図画工作・体育で（家庭科・書写は専科）、5・6年生はプラス社会科で中学籍の教員が授業に入り込みT1もしくはT2で授業を行っています。中学籍の教員の入り込みがある授業に関しては、教務主任（中学籍）が1～9年までの時間割を組んでいます。実際に授業を進めるにあたっては、中学籍の教員と小学籍の教員との間で、簡単でも短時間でもいいので、単元に入る前、また単元途中も話し合いながら授業を進めていくことが大切になってくると思います。

●体育祭、運動会のあり方？

運動会は9学年を縦割りの3グループ（赤・白・青）に分けています。3グループは、走力や運動能力、男女数だけでなく、リーダー性、人間関係、兄弟姉妹など、様々な条件を考慮して決めています。また、上級生が活躍できる場面として、縦割りブロックの中でリーダーシップが取れる場面を用意しています。

●カリキュラム編成が難しいのでは？途中から見直しが可能か？

指導のカリキュラムは京都市の指導計画に基づいて行っています。特別にシラバスをつかって指導しているのではなく、各学年の指導内容を知って、今の学年ですべきことは何かを考えています。その基本としては、研究授業を行う際に単元のつながりを9学年見通して計画を立て、本時では何をおさえ何を考えるのかの研究を行っています。そして、その指導案をストックしていくことで、どんどん各教科、各単元のつながりを明確にし、普通授業にいかせるように進めています。

●行事の工夫は？

やり甲斐，工夫のし甲斐のあるところであり，悩みどころでもあります。各学年の特性に応じた力を存分に発揮させてやりたいし，行事全体のバランスも考えなければなりません。（特に時間の調整は難しい。）複数学年が混ざった行事や，全学年縦割りグループでの行事については，上級生をリーダーとして活動させる要素も必要になります。この部分がうまく機能すると，上級生の目に見える変化が得られるため，各ブロックのリーダー学年（4，7，9年生）が活躍できるように行事が組まれています。また，三千院や寂光院などの地域の支えが加わっていることが多く，学院生たちは大人の目が多い中で，地域のことを考える機会を持ちながら，様々な地域行事を経験できています。

●4年でリーダーになった子どもがミドルになったときのモチベーションは？

4年においては，前期ブロックをリードしなければいけない，という責任を感じながら活動しています。5年からは中期ブロックになり，標準服を着用するというのも大いに意識付けに役立っています。中期ブロックでは新たにリーダーとなる7年生の姿を目標にしています。

●3・5・6年生の目標が持ちにくいのではないかな？

各ブロックの位置づけから，3・5・6年生が責任感や緊張感を持ちにくいことはあると思われます。しかし，それが表面化して当該学年の意欲などの低下が目立つことにはつながっていません。3年については次期ブロックリーダーとしての意識づけとして，4年生といっしょに活動させることで，ブロックリーダーとしての姿を学ぶようにしています。5年生については標準服を着用することで，中期ブロックとして，心身ともに新たな気持ちで臨めるよう配慮しています。6年生については，7年生のブロックリーダーとしての姿を学びつつ，7年生をサポートする場面を「Mプロジェクト」（中期ブロックにおける学院生の自主的な取組）の中で増やしています。

制度化に関わること（既存のもの，現在理解されていること，国レベル，京都事情）

●教員の免許（小のみ，中のみ）の問題はないかな？

臨免申請により，中学校籍の教員が6年以下の教科授業を受け持つことは可能ですが，小学校はできません。これについては校内的な授業の相互乗り入れの壁になっているのも事実です。

2, 小規模校で小中一貫教育を進めることと関わって

小規模のため困難とされていることへの対応

●保護者同士のトラブルは？

他校に比べ、圧倒的に保護者間トラブルは少ないとは思いますが、無いとは言いきれません。ただ、トラブルがあったとしても、基本的には、他の保護者のことを非難したり責めたりすることはありません。クラス替えもなく、ましてや小中一貫校なので保護者同士も9年間のつきあいになるということをおぼえ、うまく保護者の間でつきあいをしているように感じます。

●地域交流活性化のヒントは？

地域にある文化行事に積極的に関わることで、地域行事の一部を、学校を会場に活用していただくことだと思います。また、地域におられる技術者（伝統産業等）を講師として招き、学院生の学習に関わっていただくことで、地域交流が活性化していくと思います。

小規模校だからこそしないといけないこと

●小規模校同士の交流は？

京都市内の小規模の小中一貫校との交流としては、花背小中学校とのかかわりがあります。他府県では、広島県廿日市市の宮島学園、奈良市の田原小中学校との関わりがあります。6年生の発見旅行では宮島学園の児童と交流し、校外学習では田原小中学校の児童と交流しています。9年生の修学旅行では沖縄の石嶺中学校と交流しています。現在は中規模校の石嶺中学と交流していますが、今後は沖縄の小規模の小中一貫校との連携を計画しています。

小規模校だからできること

●9年間ずっとこの体制で学んだ子は？

現7年生が京都大原学院1期生でもあり、本校としても、この学年が卒業する段階での検証が必要だと考えています。現7年生は、本校独自の行事には十分慣れており、1～9年生の動きを考えながら活動し、4・3・2制を意識して（9年間の見通しを持って）学校生活を送っています。一般校に比べて、上・下級生両方を見る力や、見通しを持つ力は育っていると思われます。

●ソーシャルスキルをどのように身に付けるか？

様々な学校生活の場面において身につけているように思います。特に、教科学習では問題解決学習を意識して取り組んでおり、少人数の学級での活動であるため、ソーシャルスキルをつけるための機会を多くとることができると思います。また、地域に出て行く学習が多くある点も非常に効果的です。

3, 大原のオリジナリティと関わって

施設一体型小中一貫コミュニティスクール

●学校が地域に貢献できることは？

本校の地域には多くの行事（三千院での左義長や大根焚き・寂光院での地蔵盆など）があり、学院生が参加しています。運動会では江文神社の八朔おどりを毎年踊り、オオムラサキの保護活動も地域と協力して行っています。地域の行事に参加することで、地域のことをよく知ることができています。また、3年の社会科で地域のことを学び、総合学習でも地域の産業や野菜づくりを学びます。三千院のご協力により、5年生の長期宿泊学習も行っています。9年生の大原提言を9年間の集大成として、つねに地域とのつながりをもつことで、大原のことを愛し、大切にしていこうとする心情をもたせることができています。地域愛を育てることが、地域に貢献していることにつながっていると考えています。

●地域から学校にしている支援協力で特徴的なものは？

- ・雨、雪、夏の暑さ等天候に関わらず、毎日子どもたちの登校を見守っていただいています。
- ・5年生で実施する「三千院長期宿泊学習」は、地域の手厚いご支援、ご協力なくしては成り立ちません。自然体験活動の一つ百井登山では、子どもたちの安全確保のため地元の消防分団・駐在所・病院からの応援体制、地域ボランティアの方々による地元の食材を使った子どもたちへの昼食の準備等、大変お世話になっており子どもたちを見守っていただいています。また、子どもたちが規律・礼儀を身につけるため、三千院での写経や法話、食事作法や清掃等の体験学習も毎年快く引き受けていただいています。
- ・総合的な学習の時間や社会科、生活科の学習で、地域の学習や地域の伝統産業であるしば漬けづくり等様々な機会にゲストティーチャーとして関わっていただき、子どもたちが地域を知る上で重要な役割を担っていただいています。
- ・大原の地域の伝統を受け継いでいくため、運動会では八朔踊りや道念音頭を教えていただいています。
- ・しめ縄作り、リース作り、餅つき大会など子どもたちが楽しみにしている行事も地域の方々のご協力のお陰で毎年盛況に実施できています。
- ・地域から、英語検定や漢字検定の受検費用を補助していただいたり、6年の発見旅行や9年の修学旅行においては本校が小規模校であるため基準額を越えることがありますが、その越えた費用を補助していただいたりしています。また英語教育の推進においても、英語講師や教材の充実に向けてご協力いただいております。学院生の英語に対する興味・関心が高まり、英会話力の向上にもつながっています。
- ・学校・PTA・大原地域全体で協力して古紙回収に取り組み、その回収費を積み立

てし、毎年新1年生へは儀式の時に着用するトレーナーを、新5年生へは標準服のブレザーを、新8年生へはネクタイ・リボンをそれぞれ贈呈していただきます。

●保護者、地域の理解を得るための策は？

まずは、子どもたちの学力をつけることを第一に考えています。(話す力、考える力、あらゆる面において)そして、子どもたちの力が発揮できる場を設定し、その様子や成果をおたよりなどで積極的に伝えていきます。また、学校へ足を運んでいただき子どもたちの姿を見ていただく機会を増やすことも必要だと考えています。(開かれた学校)「すべては子どものためである」ということをしっかりと伝え、保護者や地域の方からの理解が得られるよう取り組んでいます。

●地域とのつながりは必須だが、必ずしも理解を得られるとは限らないのでは？

本校は地域の「学校を存続させてほしい」という強い願いから生まれた小中一貫教育校です。開校に向けて、“大原の大切な子どもたちのために”学校と地域の間で何度も話し合いがされました。今も学校運営協議会などを通して、地域との理解を深めています。学校と地域が子ども達のことを考え、話し合っより良い答えを出していくことができると思っています。

●京都大原学院のコミュニティスクールとしての特徴は？

本校は、地域の教育センターとしての役割があります。小規模保育施設「小野山わらんべ」、子育て支援施設「ぴーちくぱーちく」、学童クラブ、「放課後学び教室」が同じ施設内にあります。0歳児から15歳までの学び舎になっており、教育活動も様々な場面でクロスオーバーしながら進めています。

●地域の基幹産業は？

寺院や豊かな田園風景を核とした観光業、また、農業および、農産物(米、野菜、山菜など)の加工品の生産・販売があります。

4、小中一貫教育と学力向上に関わって

小中一貫教育小規模校と学力向上

●小中一貫教育を実施することで学力は向上したのか？

小中一貫校として学力が向上しているかを検証する方法を探り、学院生一人ひとりの学力がどのように推移しているかがわかる資料を作成し始めたところです。学力の育成には、「基礎学力」(知識・技能を習得させる学習)と「学力における活用力」(思考力や判断力を深めていくための問題解決学習等)の二つの学習活動に同時に力を入れていくことが必要であると考えています。

(1)「目に見える学力」については、「個人カード」を作成し、活用していきます。この「個人カード」には、教科ごとに全市共通の「ジョイントプログラム」「学習確認プ

ログラム」での結果の数値を記入し、各教科の指導者が各学院生の指導の重点を定め、授業や補充学習の中で実践していきます。そして、数値の推移から成果と次の課題について考えます。

(2)「目に見えにくい学力」(人間力・社会力)については、パフォーマンス(発表・報告等)の内面(思考力・判断力・表現力等)が育っているかを検証していくことが大切です。そこで、教科の学習や探究活動に用いることができるルーブリックを作成し、学院生のパフォーマンスの場面で、自己評価や他者評価を行うことに取り組み始めました。

●学力の伸び、定着は？

学年を構成するメンバーにより学力の定着度に変化はみられますが、前期・中期・後期ブロックの学力の定着は高いと考えます。その理由としては、10人前後という少人数学習による効果と、小中の教員が協力して指導するTT授業の効果だと考えます。学習に課題が見られた学院生も、伸びる時期を見据えながら、9年間の中で学力をきちんと身に付くようにしています。教師も複数学年を指導するため、くり返し定着させる機会を意識的に持てたり、スパイラルなカリキュラムを意識して先行的に指導も行うことができます。

※小柳和喜雄先生から小中一貫教育と学力保障、学力向上と関わって

他校の小中一貫教育のカリキュラムを持ち込んだからといって、それがうまく機能するとは限らない。全国学力・学習状況調査結果チャートの結果から

- ・[職員研修教職員の取組]
- ・[児童生徒の状況]
- ・[家庭学習]
- ・[各教科への関心]

の項目が高い学校の学力が高い。この項目を連動さすことで学力が上がる。そのため
の小中一貫教育ととらまえないといけない。

Ⅲ. アンケート感想

「第1回小中一貫教育小規模校サミット in 大原」アンケート回答（61名）

1. 公開授業について

- ・問題解決学習，言語活動を意識された授業が多く参考になりました。
- ・一人一人が大切にされていると感じた。教師と生徒，生徒と生徒のやりとりが多く子どもの学びが深まると感じた。
- ・生の授業が見れて，とても勉強になった。音楽の授業で生徒が上達していく姿が良かった。その際，生徒同士に改善したことなど伝え合っていたのが良かった。
- ・9年生の保育実習もあり，幼保小中の一貫教育も感じられました。子どもたちも一生懸命取り組んでいました。
- ・6年生と7年生の授業を見せていただいたが，子どもたちが自分の考えや思いを言葉づかいに気をつけながら発言していて，それで高め合ったり深め合ったりしている姿を見て，学力が高い大原の取組の成果を見る思いがしました。
- ・どの子どもも自分の意見をしっかり発表しており，すばらしいと思いました。一人一人の力が育っていると思いました。
- ・少人数なので行き届いた指導がなされていました。算数ではどの児童も自分の考えを持ち交流に臨むことができていました。
- ・児童生徒の発表力，発言の質の高さに感心しました。考えさせるアクティブラーニングの取組の成果を感じました。
- ・授業でがんばる子どもたち，生き生きと活動していたのを見せていただきました。
- ・「わらんべ」での9年生と幼児の関わりに生き生きと活動する中での笑顔，やさしさに本学院の教員の本質の一端を感じました。
- ・どの授業も大変参考になりました。ほぼ，全ての公開授業を見せていただき，学院として取り組んでこられたことがよくわかりました。
- ・1年～9年まで一人一人の子どもを大切に丁寧に関わっておられることがよくわかりました。息の長い，根拠に基づいての発言ができる子が多く感心しました。
- ・児童生徒が生き生きと授業に取り組んでいたのに感心しました。
- ・(小学校に) 中学校の先生が入ってる授業などは非常に興味を持って見させてもらいました。
- ・9年生とわらんべとの交流では，良い雰囲気の中での活動を見せていただきました。
- ・今回は大原学院の特色である，地域とのつながりをアピールしている感や，授業指導案をやりあげようとしている感があって，少し残念なところがありました。
- ・7年国語，発表会なのに発表の練習の時間がとれなかった。にもかかわらず，子どもなりにがんばっていたと思う。先生のほうが緊張しておられたのでは。口出しをせずについて

も子どもたちは頑張れたのでは。

- ・子どもを主体としたアクティブラーニングが展開されていた。教師の子どもへの関わり方が上手であった。
- ・少人数で ICT や机の配置など工夫しながら少人数のデメリットを克服する努力をされていた。本校であれば複式学習となっている規模だと思いますが、加配教員等が手厚いのでしょうか。
- ・子どもたちが考え、発表する形の授業がどの学年も行われていましたが、なかなか討論になっていないところは本校でも課題になっていて、どのような授業をしていけば良いのか研究しているところです。
- ・やる気スイッチオン、教師の子ども一人一人を見る目がないとスイッチは押せません。教師にスイッチオンが必要なのかも知れません。
- ・どの学級でも子どもたちが生き生きと自分の考えを発表している姿に感動しました。友達の考えと自分の考えを比べたり、良いところを見つけあって伝えたり、どの子も一生懸命学習に取り組んでいました。小中一貫校を初めて見学させていただきましたが、とても勉強になりました。
- ・地域のことを取り扱った教材が多く、学習の必然性を児童生徒が多いと思われる内容でした。思考の場面と活動の場面がテンポよく切り替えられる設定になっており、楽しく学習し、深められる授業が多かったと思います。
- ・教師と子ども、子ども同士の間で温かい交流が感じられました。
- ・よりこの実態と、それに応じた手立ての見える指導案になればと思いました。
- ・どの教室でも、質の高い授業ができていました。どの児童生徒も自分の考えをしっかりと発表できる点に感心しました。
- ・どのクラスの子どもの生き生きしている授業はとてもよかったです。先生方も自信をもって取り組んでいる様子うかがえました。
- ・6年と5年の授業を見ました。6年：難しい問題をそれぞれの解き方で解いているところや、それをしっかりと発表しているところが素晴らしかったです。学力が高いと普段からしっかりと力を付けるような授業がなされていることがわかります。5年：子どもたちが難しい貿易問題についてしっかりと意見が言えていたところがすごいと思いました。そして、互いの意見を言い合いながら自分の考えを深めていることが、授業の感想の発表からもわかりました。
- ・児童生徒がいきいきと学習していましたね。堂々と発表する姿、普段と変わらない姿に思えました。
- ・少人数を生かし、一人一人と向き合った授業を見ることができました。また、様々な特別教室を利用して行っている授業に感心しました。
- ・いろんな方々の授業を聞き、教室を見て回りましたが、楽器を使って楽しく授業する先生や、ICTを活用している先生、多目的教室の広さを利用して理科の授業をしている

先生など、教室の使い方は様々だと思いました。

- ・ 3年生の英語：生徒が全員主役だと実感できる内容でした。一人一人の発表内容に先生や生徒から良い点やアドバイスができるので、発表者以外も集中して取り組めるのが素晴らしいです。 5年生の社会：挙手の時の両面のサインがとても驚きでした。すぐ話し合いや思ったことをまとめられるのも、習慣づいた授業の流れが定着しているんだなあとと思いました。難しい練習文をシンプルに言い直すのもよりわかりやすく参考になりました。
- ・ 9年英語：実践的な英語の学習をしており、中3の受験期には珍しいと思ったが、本質的でよいと思う。 9年家庭：廃材での工作を通じて幼児の面倒を見ていた。幼・中が近いことは相互にメリットがあると思う。 4年社会：4年生で地区計画について学んでいることに驚いた。 2年音楽：少人数だから手の止まっている子をサポートできるのだと思った。
- ・ 全学年学級の児童生徒が生き生きと学んでいる姿が印象的でした。少人数の学びが安心感につながり、堂々と自分の考えをいうことが、できているのかなと感じました。
- ・ 7年の国語の授業で、子どもたちのコミュニケーション力の高さに感心しました。日頃の先生方の指導の賜物だと感じました。アクティブラーニングをするうえで、「学び合い」については、どのように考えられているのか教えてほしい。
- ・ 子どもたちのまなぶ姿がとてもすてきでした。特に7・8・9年生のやわらかな表情、意欲的な学びの姿、説明する姿が良かったです。このような子どもを育てる学校目標、小中一貫教育が大きいと思いますが、日常の学習の中で何を大切にされてきたのかをお聞かせいただきたいと思います。
- ・ 主に小学校の授業を参観させていただきました。子どもたちが意欲的に発言する様子や子ども同士で次に発言する子をあてるなど、いいものをみさせていただきました。
- ・ 少人数の授業で大変充実していました。特に低学年の授業がテレビを使っていておもしろかったです。
- ・ どの授業も児童生徒が意欲的に活動していた。
- ・ 1校時 4年社会：みんな元気でしっかりと自分で考え、はきはきとしていたのが印象的。仲が良いことがよくわかった。学校が楽しいと感じていることがよく伝わってきた。 2校時 5・9年育成：お互いが協力して、いい発表にしようとして気を遣いあっているのがよくわかった。祇園祭についてよく調べられていた。
- ・ 4年社会、7年国語を参観。小中カリキュラムが一貫しているのも、自然に小学校の体験や学習を具体的に取り上げて振りかえりながら学習を展開することができた。（義務教育9年間の「出口」を意識した取り組みを1年次から行うことができる強みがある）
- ・ 様々な授業を見せていただき、個に合わせた授業をされていると感じました。
- ・ 9年間を通した地域の学習がとても印象に残りました。総合的な学習の時間の最終目標を9年生の大原提言に据え、一貫教育を少人数をうまく利用して行っていて素晴らしか

ったです。4年生の授業がその途中を見ているようでとても面白かったです。また、育成学級でも地域学習の取組をされていて驚きました。とてもよかったです。また、育成学級でも地域学習の取組をされていて驚きました。とてもよかったです。

- ・子どもたちと先生がとても生き生きと学習しておられる姿を見て、感心しました。様々勉強になりました。
- ・学院生たちがいきいきと授業を受け、学んでいる姿がよかったです。先生方もアクティブラーニングに取り組んでおられると感じました。
- ・授業の質が高い。子どもたちが思考し、話し合いが子ども同士でどんどんつながっていく様子が素晴らしい。「学習問題」を提示する前に「教師の考えたこと」「子どもが学びたいこと」を一致させるため導入があり、教師の一方的「問い」ではなく、子どもの中から生まれた「問い」になっている。(4年社会など) これまでの授業の水準の高さの根本は教師の力量形成であり、しっかりとした理念理論を指導し、校内研修と日々の授業が充実しているからだと思いました。
- ・質の高さを感じました。子どもたちの探究心を揺さぶる課題設定がほとんどの教室で見ることができました。
- ・4年生の授業で、児童が自分の意見を述べたあとに、他の子に「別の意見はありませんか」といった尋ね方で次々と児童たちが積極的に発表していました。その後の7年生でも、同じ形で発言のルールがあり、語型の統一がされているように感じました。小中一貫の強みだと思いました。
- ・発表(人前で)することに慣れていているように見えました。日頃の積み重ねを感じました。
- ・子どもたちの活動が生き生きしていました。学ぶ他楽しさが伝わってくる授業が多かったです。
- ・4年生の社会科を参観しました。導入のグラフからの読み取りや美山町との比較など、社会科としてのスタイルとしてはとてもよかったですと思います。ゲストティーチャーの田家さんのコメントもよく、子どもたちもしっかりと聞けていたように思います。

2. 児童生徒の発表(全体合唱・大原提言)について

- ・合唱は学院が一つにまとまっている姿を強く感じました。9年生の大原提言のプレゼンは内容発表方法が素晴らしかった。
- ・大変感動しました。素晴らしい歌声にすべてが集約されていました。立派な発表でした。
- ・全校合唱、一生懸命歌っていてよかったです。大原提言、しっかりと自分の考えを持ちわかりやすく説明していてすばらしかったです。
- ・みんな、大原の地域に誇りを持ち、幼いころからつながりをもって育ってきた幼馴染という印象を歌っている姿から感じました。9年生としてしっかり考え、まとめて発表していました。大人の社会にも一石投じるような内容も端々で見られました。

- ・一体感を感じました。日々共に学ぶ子どもたちが先生の指導のもと、一つになって合唱できていました。9年生大原提言よく考えて地元を大切にしていると感じました。
- ・全校合唱のまとまりを感じました。9年間の集大成としての提言がとても立派でした。詳しく調べ、考え、わかりやすくまとめ発表の仕方も大変上手でした。
- ・小学生と中学生が同じ歌を歌えることに驚きでした。一生懸命に歌う小学生がかわいらしかったです。大原提言の内容は質が高く、ICTを用いての発信がまさになさされており、すばらしかったです。
- ・小中の子どもたちが一緒にできているのがとても良かったです。提言はとてもよくまとめられていて、なるほど、となるものでした。
- ・全校合唱も素晴らしかったのですが、9年生による大原提言は論旨が明確で調査もしっかりなされており、9年間の集大成にふさわしい論文であったと思いました。小学校1年生のノートづくりや思考を積み上げている様子を見せていただき、ここから9年間を見通して来られたのだなと思いました。
- ・9年生の発表、地域とともにあるもので努力があふれたものでした。
- ・調査活動に基づき、自分の考えをしつかりまとめられていたと思います。
- ・大原提言では9年生のしっかりした発表を聞くことが出来、自分たちで下調べ準備が十分されていたのが伝わる発表でした。
- ・提言は学びから具体的に自らの言葉で案を伝えられるようになっていることが学院の目指しているところだと感じました。
- ・異年齢集団の良さが合唱を通じてよくわかった。
- ・立派でした。ただ、地域代表の上田さんがおっしゃっていましたが、2人ともすごく優等生っぽかったので、他の子の提言も見てみたくなりました。
- ・先生方のきめ細かなご指導が発表に出ていたように思います。
- ・9年間、大原で学んできたからこそ、自分たちの里に誇りを持ち、これからも守っていききたい、という気持ちがこめられた提言だった。
- ・キャリア教育の集大成として「未来の大原を考える」というテーマは小中一貫教育を行っている小規模校では必要だと思います。
- ・1年生から9年生が一体となって歌う合唱が見事でした。私も現在1年生担任をしていますが、一生懸命（難しい曲だと思いますが）歌っている姿がかわいかったです。大原提言も自分なりの考えを堂々と発表していて素晴らしかったです。9年間のまとめの姿として見事でした。
- ・ていねいに合唱表現を全校で作りに上げていたと思います。中学生の声は、女声は頭声的な声で歌え、全体に自然な綺麗な声でした。小学生は少し地声が強くなっていたので、全体釣り合わないのが残念です。小学生もソプラノをイメージした歌声になるといいなと思います。
- ・小中一貫の「よさ」がギュッと詰まった感動的な合唱でした。

- ・地区の実態を的確にとらえ、メリット・デメリットも含め、確かな分析に基づいた現実を見据えた提言は、9年生らしさが輝いていました。これぞ「大原学院！！」という印象でした。
- ・大原提言は、とてもよかったです。しっかりと自分の考えをもち、提言ができるところに大原地区の未来の明るさを感じました。
- ・全児童生徒の合唱は、とてもきれいで素晴らしかった。2名の9年生の提言は、地元を愛する気持ちがよく出ていて、しかも、まとまりがあり、分かりやすかったです。大原の未来に期待します。
- ・児童の歌声とてもよかったです。大原提言は中学生が大原について真剣に考えていることがよくわかりました。このような地域学を推進すれば、ここを巣立つ子どもたちが、たとえ大原に帰ってこなくても大原のことを大切に思うようになるのではと思いました。
- ・1年生から9年生がまとまって一つのものをつくりあげるっていいですね。さすが9年生という大原提言でした。
- ・1年生から9年生まで身体の大きさの違う児童生徒の合唱はまさに大原学院の姿を見ているようでした。大原提言では、9年生があそこまで地域のことに対し自分の考えをまとめる力をもっていることに驚きました。
- ・頑張っている練習している様子が頭を何度もよぎりました。(合唱)とてもレベルが高い発表で、大原という地域を知れると共に、調べる力やプレゼン力など様々な力が付いている様子がわかりました。
- ・小規模校の一体感を合唱にて感じました。男子生徒の大原提言も聞きたかったです。(ユニークなもの)
- ・全校合唱：幅の広い学年の合唱は声帯のバラつきがあり、難しいと思うが、個性が出ていてよかったです。大原提言：生徒が大原の観光や移住者を増やそうという意見を表明することは、大原にとって大変意義あることだと思う。新しいことに対して保守的な大人の方にも響くと思います。
- ・大原提言：実生活から問題を見出し、将来のことまで見据えた提言となっており、大変すばらしいと思いました。どのように取り組まれ、どのように生き方探究教育をとらえられているのか、知りたいと思いました。
- ・小中一斉に歌えるのは一貫校ならではのですね。本校は、連携の段階で、今日見て、一体感が感じられ、うらやましく思いました。また、子どもたちの視点で提言するのも、地域を大切に思う心を育てる意味でも、大切なことだと思う。
- ・小中一貫のよさ、特に専科指導の成果が合唱に表れていました。提言につきましても9年間を貫くふるさと学習の取組の成果だと思いました。
- ・とてもよかったです。広いステージを生かした合唱でした。提言についてはよりよくしていくための具体的なアイデアが、本校にも当てはめて考えることができると思いました。

- ・すばらしい合唱でした。「大原にもっと人が住めるようになるには」「大原フォトコンテスト」も楽しく聞かせてもらいました。よく頑張って発表してくれました。ありがとう。
- ・合唱は大きな声で堂々と発表できていた。提言は内容が充実していた。
- ・非常にいい表情をして合唱していました。9年間の発達段階が声を通して感じることができました。大原提言は机上の空論ではなく、実際に実現させるために考え、調べ、課題解決するための道筋がよくわかりました。発表者大原の強みと弱みをしっかりと把握しているところに驚きました。そして、大原のことを真剣に考え大原を何とかしたいという思いがしっかりと伝わってきました。素晴らしい発表でした。
- ・よくストーリーを考えられて話を組み立てられていた。発表の様子も真剣さが伝わってきてよかった。
- ・大原提言の2人の生徒の発表は特に素晴らしかった。家賃、地価、間取り、具体的でわかりやすく開発と保存の両立の大切さ（むずかしさ）を感じた。
- ・全身素晴らしいきびきびした動き、よく練習している結果だと思います。
- ・先に書かせていただきましたが、大原提言がすばらしかったです。それぞれテーマを決め、対策やメリット、デメリットを考える点など発表してもすごくわかりやすくまとめられていて少し感動しました。よかったです。
- ・子どもらしさと大人っぽさがとけあった何とも言えず素晴らしい歌声、演技でした。
- ・4年、3年、2年（前期ブロック）も声がよく出ていましたね。大原提言については大変良く考えられているなと思いました。
- ・6月から練習してきた「青春の1ページ」「白いライオン」の全校合唱はとても聞きごたえがありました。9年生の卒業論文「大原提言」は研究の流れ手順がふんであり、「大原フォトコンテスト」と「大原スタンプラリー」は観光客を多くする実践的な取組であった。また、大原アパート（集合住宅）の提言も活気のある街づくりを目指そうという思いの伝わってくるものであった。切実な生徒の思いからスタートしている総合学習として大切な点であると思った。
- ・小規模校ならではの温かみを感じました。
- ・大原提言：HPで、取り組まれていることを知り興味がありました。廊下に掲示されている内容も読ませていただきました。私どもの取組の参考になりました。発表している生徒も堂々と落ち着き、ふるさとを思う気持ちがよく伝わりました。合唱：1曲目の美しいハーモニー、2曲目の力強い声に感動しました。
- ・大原のことをよく考え、愛着があることを感じました。
- ・地域の実情をよく知り、しっかり考察された提言がされていたと思います。
- ・全員の気合がよく伝わってきました。青野先生の努力が実を結んでいますね。二人ともレベルの高い提言でした。指導の先生も大変だったと思います。

3. 本校の研究報告について

- ・明快でした。参考になる部分が多く、可能ならもう少し長くお話を伺いたかったです。
- ・もっと時間があると良かったかもしれません。
- ・学習の主体者に視点をおいた研究の取組を進めるための「やる気スイッチオンを支援する取組とアクティブラーニングを全教科授業において工夫して取り組もうとされていることは非常に良い方向だと思います。
- ・スイッチオンについて、学ぶ意欲づけを日々先生なりに考えておられることに感銘しました。
- ・わかりやすかったです。
- ・9年間を通しての成長が見られること、小学生、0歳児と同じ空間で過ごすことで中学生が優しくなれるという言葉が印象的でした。
- ・教職員がどのように小中で動いているか、担当を持っているのかがわかった。
- ・研究を積み上げておられる途上であることがよくわかりました。
- ・7年目ということですが、小中一貫教育の着実なお取組は大変参考となるものでありがたかったです。
- ・地道に取り組まれてきて、課題をいくつも乗り越えられてきたことがわかりました。
- ・小中一貫になってから、学び合いの在り方について1～9年生まで明確なものを教師間で統一を図ったり、深めていたりしていることがわかりました。
- ・前期から中期、後期をどのようにつなげているのか、もう一步踏み込んだお話が聞けたら良かったです。
- ・(会場の質問にもありましたが) したことの報告だけでなく、子どもたちの現状課題→どんな風に力をつけたいか→そのためにどんな研究→9年の終わりの子どもたちの生徒の姿はどんな姿なのか。
- ・「やる気スイッチをオンにする支援」が印象に残った。
- ・自分の学校の研究内容と重なるところがあり、興味深く聞かせていただきました。
- ・まだまだ、これから始めていかれるんだなあというのが正直な印象です。小規模ならではの成果や振り返りなど数値やグラフ、地域の意見等具体物が聞きたかった。
- ・もう少し家庭学習の取組について聞きたかった。
- ・もう少し、発表時間及び、質疑応答に時間をかけてほしかった。様々な取組を具体的に紹介して欲しかった。
- ・問題解決学習に取り組まれて4年目と聞き、驚きました。一人一人が課題に向かって自分なりの考えをしっかりともち、仲間と伝えあい練り上げている姿が印象的でした。教職員全員が同じ方向に向かってベクトルを揃えて取り組まれていることがよく伝わってきました。アクティブラーニングについて私ももっと勉強していきます。
- ・小中の先生方が共通に視点をもち、発達段階のメリットを生かせる研究になっているの

が素晴らしいと思います。9年間で4・3・2とブロック化し、学習の進度や内容を考えたこと、入口から出口まで長いスパンで教員が育めること、そして、授業改善の取組が、子どもにとってプラスになっていると思いました。

- ・小中の課題をとらえ、小中一貫ならではの視点と良さを生かしたものだと思います。
- ・「公開授業について」でも書きましたが、より「個のまなび」・育ち」という視点に立った支援や方策などが指導案に見えてくると、よりよい「大原ならではの」の研究になっていくと感じます。
- ・教員一人一人が「児童生徒がやる気スイッチをオンにするような支援」に取り組んでいる点が素晴らしいと思います。参考にさせていただきます。
- ・小中一貫のメリットがよく整理されていた。一貫教育は、今後の教育の方向だと思います。先生方の自校の子どもたちを育てていくという熱い思いが伝わってきました。
- ・アクティブラーニングについてとても勉強になりました。
- ・9年間を見通した取組、分かりやすかったです。
- ・様々な取組に考えをもっていることに感心しました。今後さらなる良い結果が目に見えるとよいと思います。
- ・どのように授業を進めているのか、生徒のどこを見て授業を展開しているのかよくわかりました。建築の分野からも教育に関わることができることもあるかと思いますので、そこを含め、一緒に考えていきたいです。
- ・アクティブラーニングは、結局どうすればいいのかわからず、実践できていませんでした。教師で支え合い、授業を見て研鑽し合う体制が必要だと感じました。
- ・プレゼンで示されていた「授業の視点」＝「アクティブラーニングの視点」ととらえたらよいのかなと思いました……。
- ・日々の研究、お疲れ様です。小中一貫のシステムを支え、より生かしていくのは、先生方の研究だということを改めて実感しました。できればもう少し質問の時間があればよかったです。
- ・シンプルでわかりやすい報告でした。
- ・「やる気スイッチをONにするきっかけとなる支援」について改めて授業の作り方について考えさせられました。大変参考になりました。
- ・研究報告は特に「やる気スイッチをONにする支援」に興味深かった。本校でも取り組んでいきたい。
- ・アクティブラーニングについては興味深く聞かせていただきました。アクティブラーニングは今年からとおっしゃいましたが、これまで大原学院が取り組んでこられた内容がすでにアクティブラーニングだと思います。今日の研究報告はそれを整理されたものであると思っています。参考になりました。
- ・やる気スイッチをONにする支援について具体的に目標を決めて効果を見ながら工夫されていることがよくわかった。

- ・とてもわかりやすく、「やる気スイッチをONにする―」という表現は、ナイスである。指導案への明確な位置づけが可能。
- ・小中連携の強みを生かした研究がなされていると感じました。
- ・地域とのつながりが学校教育では欠かせないものだなと改めて感じました。その点をもっと研究報告に盛り込んでもらってもよかったのではないかと思います。
- ・やる気スイッチの取組、とても素敵な取組だと思いました。
- ・0歳児から9年生まで、すべてが共に学ぶことは、お互いをよく見て、思いやりや憧れの心が育つ土壌があるなあと思います。
- ・大変参考にある内容であった。文化の壁を乗り越え小中で「学院生の視点」を大切に研究を進めている点が特に参考になった。「授業でつながる教職員集団」は小中一貫教育の中核部分であると改めて思った。「評価と検証」について質問させていただいたが、①学校評価と、②一人一人の経年変化（学力テスト）でみているとのこと、学力を全体数値でとらえず一人一人でとらえている点はなるほどと思った。これだけ充実した実践をしているので様々なパターン心の面や授業も含めて多くのことが言えると思った。
- ・「やる気スイッチ」の名称もおもしろいし、その手法を全教員で考えておられ、方向性をまとめていく難しさと同時に楽しさを感じました。
- ・私も、中央大学の先生と同じことが聞きたかったので質疑の時間を設けていただきありがたく思っております。限られた日程の中でこれ以上はとれないのかもしれませんが、とても勉強になりました。参観させていただいた授業内容と発表にはつながりがあってとてもわかりやすく感じました。
- ・全教職員のつながりを感じました。
- ・「やる気スイッチをONにする支援」というキーワードが強く心に残りました。少人数の特性をフルに生かして学習活動を進めておられるのだなと思いました。
- ・大原学院としての小中共通の指導案、1～9年を見通したスタイルが確立されてきたと思います。さらに研究を進め、全国のモデルをめざし、小中一貫教育の「京都大原学院モデル」として出版してください。（監修は、小松先生、小柳先生、赤沢先生で）

4. 小中一貫教育小規模校サミット全大会について

- ・内容の濃い1日を過ごせました。大原学院の先生方はもちろん、同一県内では得難い他府県との情報交換で有意義でした。地域のことも大変参考になり、学校をコアにして地域発展につなげるイントロをいただきました。
- ・ぜひ、続けて下さい。
- ・グループディスカッションでいろいろな学校の様子を聞くことができ良かったです。
- ・小中一貫教育校の取組の空気にふれたことがまず、良かったと思います。話をいろいろ聞いていて、与えられている環境をどのように受け止めるかによってメリットにもデメ

リットにもなることがよくわかりました。

- 一貫教育の強みについて確認することができた会だと思います。実際には多くの悩みや課題を克服しながらのことだと思います。
- 熊本から参りました。最初は 1 日参加で申し込みましたが、新幹線の時間の都合で午前しか参加できず、申し訳ありません。
- 5, 6 年前だと思いますが、貴校から転入してきた児童がおりました。丁寧な言葉を使い、小さい子たちに温かい心を示してくれる落ち着いた子であったこと。今でもよく覚えています。研究主任として本日の発表で得たことを自校教員に広めたいと思います。
- 各校のパネルディスカッションでは小中一貫の地域や卒業生の声が共通していて「良かった。」という長所は同じなのだと思います。
- 幅広い考えが交流でき、大変参考になりました。地域の方や卒業生の声が聞けて小中一貫校の強みが実感できました。全国各地からたくさんの人が集まり交流が持てたことは意味があったと思います。
- 様々な意見を交流させていただきましたので、自分の学校に持ち帰って職員間の情報共有にしていきたいと思います。
- 小規模校だからこそ、学校全体の目指す方向性が共有しやすく地域とも共有しやすいと思います。それぞれの学校の特性をどう活かせるかが小中一貫の見どころだと思います。
- 小規模校の場合、何校かの小学校の統廃合が今までは一般的。それがここ数年小中一貫という動きが強まっている。グループディスカッションのテーマ、本日の場合、小規模に動きがあるのか、小中一貫に動きがあるのか、分からず、私は両方の意見を出しました。何について話し合うのか、もう少し明確に絞っても良かったのでは。
- グループディスカッションが「大原学院では・・・」とか「事前にいただいていた質問についてですが・・・」と話が始まり、ディスカッションにならなかったのが残念でした。もっと、様々な意見を聞かせていただき考えたかったです。
- ワークショップ型式を途中に入れられたことは大変良かった。保護者、地域、卒業生の意見が聞けて良かった。
- パネルディスカッションでは、保護者、地域、卒業生のみなさんの生の声を聴くことができるとも有意義でした。小中学生時代にはいろんなことがあり、不安を乗り越えて成長する時期です。この 9 年間を一貫した指導態勢で実践していくことはとても大事であると思いました。そして 9 年目に自分の進路選択で高校入試にチャレンジしていくこと、自分の生き方について 9 年間の中で考え、自己決定していく形が良いと思いました。
- グループ協議、もう少し話したかったです。
- 交流会、いいアイデアだったと思います。ワールドカフェ方式等を取り入れるなどもっと多様な意見交換がしたかったです。今後、その部分をもっと入ってくると思います。
- 3 校の取組や一貫に至る過程等を聞けて良かった。特にグループ討議で地域の方や大原学院の先生にいろいろ聞けて交流が出来て良かったです。

- ・小中一貫のメリットを多く見つけることができました。本校はまだ、小中一貫を行っていませんが、小中教員の大きな壁を取り除き子どもたちの大きなそして多様な成長をめざしていきたいと思います。
- ・各校の紹介ビデオとても良かったです。グループワークの時間とても良かったです。（もっと時間が欲しかったです）
- ・今回、校長と教頭2名で参加でしたが、もっと大勢で来るべきだったと反省しています。
- ・ちょっと長いです。
- ・もやもやがたくさん残っています。もう少し色んなことについて話すためにグループディスカッションより、先に付箋を出しておいて、その中から討議の柱を立てて欲しかったです。
- ・今後、さらに深い話合いが持たれることを願います。
- ・3校の発表を聞き、デメリットと感じていたことが実際にはメリットとなったこと、ワークショップの意見交換で形を整えればしだいに教員の小中の文化も乗り越えていくことなど、心配が取り越し苦労であると思えるようになりました。メリットを考えて進めていくことの大切さを感じました。
- ・本校も義務教育学校としての小中一貫校を目指したいものだと考えています。その良さを生かせる様々な視点を学ぶことができ感謝しています。どうもありがとうございました。
- ・パネルディスカッションがとてもよかったです。教職員でなく、地域や卒業生が学校のように話をしてくれることに、とても新鮮さを感じた。
- ・一貫校のデメリットは感じませんが、地域や保護者からの不安や心配はありませんでしたか？また、今後の課題は何でしょうか？
- ・先生方の御対応、書類の準備等、とても気持ちよく参加することができました。
- ・小中一貫教育の良いところと小規模校の良いところが合わさって、とても魅力的な学校が各校で作られていて、それがわかってよかったです。すべての動画で、地域と学校との連携が見られました。学校の授業として地域を学ぶとともに、地域の文化を守ることにつながるといのはとてもよいことです。ぜひ続けてほしいです。
- ・パネルディスカッションで、学校からではなく、地域の目線、卒業生の目線から生の声が聞けたのでよかったです。
- ・昨年、姫路、今年、三条市の全国サミットに行きましたが、小規模校ならではの一貫教育を視察することができ、とても参考になりました。
- ・グループディスカッションでは、短時間でしたが、情報交換をすることができました。おかげで、来年度の小中一貫教育開校に向けて、より一層気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- ・多数の参加者を見て小中一貫教育の緊急性、重要性を感じました。それぞれの実践を交流し、互いの実践に生かしていくことが大事であると感じました。

- ・教師の発表ではなく地域の人や卒業生の発表だったので、説得力があったように思います。
- ・パネルディスカッションでは、3校の保護者や卒業生の生の声が聴けて本当に良かった。グループディスカッションでは、どのグループの大変盛り上がり、充実した会になった。
- ・まず、全体会でグループワーキングを取り入れて参加型にされていることに感銘を受けました。小中一貫教育を通して自分たちが育った地域を強く意識し、誇りに思えるようになったと感じ、うれしく、そして頼もしく感じました。全体会に参加させていただいて改めて自分たちが取り組んできた教育が子どもたちの育ちにプラスであったと感じることができました。
- ・パネルディスカッションで、パネラーの人々について、学校地域を愛しているということがひしひしと伝わってきました。
- ・卒業生や地域の方の言葉が主御中一貫校のよさそのものを表している。
- ・都道府県の壁を越えて他ではどのようにされているのかを知れる良い機会となりました。
- ・とても示唆に富む話で参考になりました。
- ・グループディスカッションの時間がもっと長ければ、よかったのではないのでしょうか。遠方からお越しの方々にもっと意見を出してもらえたらと思いました。
- ・参加型の全体会で話し合うことで得るものは大きかった。地域の方と卒業生のお話をお聞きでき、とても参考になった。小中一貫教育は「教師を飛躍的に成長させるチャンス」という小松先生のご指導は意欲を高められた。
- ・グループディスカッションにもっと時間を持ってほしかった。
- ・パネルディスカッションでは、卒業生の生の声を聴くことができました。グループディスカッションでは、先進の取組のメリット・デメリット、その克服について様々なお話を聞くことができました。貴重な意見をいくつか聞かせていただきました。あっという間に時間が過ぎてしまいました。パネラーの保護者地域の方のお話は今後の参考になります。
- ・地域と卒業生の生の声に伝わってくるものがありました。
- ・もう少し話し合いの時間が取ることができれば、さらによいものになったのではないかと思います。
- ・授業参観→パネルディスカッション→グループ討議などテンポもあり、よかった。地域保護者の方の協力、教職員のはたらきなど感激しました。

5. その他ご意見・ご助言などお願いします

- ・先生方との交流会の場の設定もいただきかった。継続的に学ばせていただければ幸いです。
- ・私の出身は岐阜県飛騨地方で、大原に少し似たところがあります。こうした地域が残っ

ていくように暮らしていきたいです。

- ・ 9年生の大原提言を聞いて、大原観光をせずに帰るわけにはいかないと感じました。
- ・ 小中の文化の違いの乗り越え方はベクトル合わせということと、何でも話合える関係づくりでしょうか。
- ・ 近くにある学校なので、またお伺いし、勉強させていただきたいと思います。
- ・ 小中一貫のシステム（教師の配置、行事等について）教えて欲しい方々は多かったと思います。
- ・ 校内の教室を利用して、学童クラブやわらんべがあることにおどろきました。1～9年生にとって良い環境にもなることだと思います。
- ・ 中学生の提言素晴らしかったです。大原を大切に思う気持ちが伝わってきました。観光客を増やす工夫として地域の良さをアピールするのは「人」だと思います。
- ・ 学院の中に「わらんべ」があること。そしてその子どもたちと9年生が一緒になって活動している様子を見て、とても良いことだと思って参考にさせていただきました。（質問）どんな場でブロックのリーダーを務めるのだろうか。（質問）放課後まなび教室はどんな人が支援しているのですか。
- ・ 大原学院の皆様これまでもこれからもよろしくお祈りします。本日はとても大きな学びとなりました。
- ・ 一日ありがとうございました。また、第1回目の開催を心よりお喜び申し上げます。今後も手作りのサミットが盛り上がるように祈っています。
- ・ 後半にあった、交流や Q&A の時間がもう少しあれば良かったです。特に小中の文化の違い（特に教員間の）をどうクリアーしていくか課題です。
- ・ 小規模の学校で準備物も大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。小中一貫小規模校は人間関係の固定化をクリアーする。
- ・ 第1回って大変ですね。ありがとうございました。
- ・ 本校の小中一貫をすすめるに当たり、大変参考になりました。
- ・ 「大人になる科」ではどのような学習内容を各学年・発達段階に応じて取り組んでおられるのか教えていただけたらと思いました。
- ・ コミュニティスクールと小中一貫を進め、現在は授業力の向上に取り組み、着実に伸びている学校であると感じました。これからも先進的な取組を見せてください。
- ・ 大変参考になる本会でした。心より御礼申し上げます。
- ・ 午後の部、ちょっと内容が多すぎたように感じます。「パネル」も「講評」もよかったのですが、どちらかでよかったのでは。
- ・ 来年度から本校も小中が同一の校舎で過ごすことになり、今日、貴校の取組を参考にさせていただきたく参加させていただきました。今後ともいろいろと教えていただけたら幸いです。ありがとうございました。
- ・ 紅葉の季節で素晴らしいと思いますが、大原学院まで来るのは大変ですね。

- ・校舎では、様々な先生方の工夫が見られ、うまく建物を使いながら愛着を育んでいる様子が感じられました。
- ・周辺の素晴らしい環境を共に益々よい教育が続いていくことを願っております。
- ・校舎を新しく建てる場合、廊下はとても整然としていることが多いのですが、大原学院のように廊下にモノや掲示物があふれている様子もとても豊かで、魅力的でした。新しい学校ではないのに先進校という学校として地域も含め頑張ってください。
- ・やる気スイッチ、お昼は眠くなってOFFになりがちだけど、どうして対応しているのかなと素朴な疑問です。目が覚めるようなアクティブな授業を毎日提供できるのでしょうか！
- ・同じ校舎の中で、0歳から15歳までの子どもたちが学ぶことのできるとても素敵な学校だと思いました。大変勉強になりました。学校地域が一体となって学校づくりをされていることも学ぶことがたくさんありました。様々なところで丁寧に対応してくださったことも、ほっと心が温まりました。ありがとうございました。
- ・質問ですが、5・6年から部活動するとき、小学校関係の先生も顧問されるのですか？
- ・本校はH28年4月小中一貫教育校としてスタートします。いろんな違いや疑問がありましたが、今日の会で迷いの晴れたことがたくさんありました。実践にあたってまだまだ疑問がわいてくると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。
- ・今後とも交流連携よろしく願いいたします。
- ・参加させていただいてありがとうございました。大変勉強になりました。小中一貫教育をさらに盛り上げていきましょう。
- ・校舎のあちらこちらに大原を意識する掲示物（写真・ポスター）が貼ってあるのを見てとても参考になりました。視覚からも大原の素晴らしさを感じさせることは大切だと思いました。地域と共にある学校、特に大原はそのことを強く感じています。大原が好き、大原に誇りを持てる子どもを育てるうえで、個の小中一貫教育は大きな力になると思います。大原の教育を参考に本校も取り組んでいきたいと思っています。京都大原学院の石飛校長をはじめ教職員の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・授業参観について、保護者地域住民ということで、地域学習・交流学习を見ましたが、もっといろいろ見たかったという思いであります。（それだけ見たいところが多かったということです）私の娘も現在5年生で田原小中学校に在籍しているのですが、保育園は市内の大きなところに通わせていました。そこで同じ地区から通っていた同級生がいたのですが、今は、その子は、市内の大きな学校へ通っています。聞くところによれば、サッカーをさせたいが、田原ではチームが作れないからというのが大きな理由であったそうです。練習に他校へいくスポーツクラブに入るのが難しいので、やむを得ないと思います。田原から車で15分で市内の大きな学校へ行けるので、そういう立地条件もあるかなと思います。他に、小規模の子どもが競争心をもたないという意見も聞かれます。「小規模だから仕方ないな」というのではなく、「小規模だからそういうことができる」

というのを積極的にアピールできないといけないと思います。大規模校で小中一貫がされ、それによって小中一貫の効果が出てきたときに、小規模校のアピールが必要と思います。(小規模になってきたときの苦し紛れ、一時しのぎではない!ということのアピールしていくのが必要では?) 続きについては、小松先生の講評をお聴きしていると、同じ趣旨の話をもっと程度の高いようにされていますので、省略します。

- ・小中一貫は小中連携の延長にある。行政の支援も当然だが、その前に、生徒・保護者・学校さらには地域を交えた論議を「下から」進めていく必要がある。地域に誇りを持つだけでなく、子育ての環境や働く環境など、社会的な環境の充実も急がれる。
- ・またいろいろ教えてください。
- ・大変勉強になりました。会員になるかどうかは後日連絡させていただきます。
- ・申込み(インターネットで申し込みましたが)その際に「質問など」という部分に書かせてもらったことや、今日のディスカッションで出た質問にはどのような形で回答いただけるのでしょうか。
- ・行事以外にも1～9年生と一緒に学習する機会があるということで、そちらの様子も見ていただきたいと思いました。また、普段の様子も見てみたいと感じました。学校開放週間など設けられているのでしょうか?私の勤務校と重なる部分も多く、とても参考になりました。本日はありがとうございました。「わらんべの里」大変興味があります。田家様にはDVDもいただき、お話を伺わせていただき感謝しております。
- ・アクティブラーニングは「アクティブ・ラーニング」ではないでしょうか?
- ・次回サミットの開催予定は?3校の持ち回りなのか、大原でお願いします。今回のアンケート集約で全国の小規模校での共通課題をそれぞれの学校で解決するサミットの開催をしてはどうでしょうか?
- ・至急に体育館の音響設備をよいものにしてください。